

たぐら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 701

3
March.2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



イカナゴ漁解禁 (明石海峡)

イカナゴ漁 解禁

ブラジルに兵庫のりを届けたい! ~JF兵庫漁連の取組み~

《今月の海上安全標語》 ~ 見張りは大事! ~

操業中は忙しい! ついつい作業に気を取られているあなたの後ろには、忍び寄る巨大な影が…!!

なんじゃこりゃ! 後ろの巨大船は ^ふ_ね 想定外 では、今月も安全操業で!

ようそろ

「ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときにの号令として使われる。」

お陰様

兵庫県漁業共済組合 事業部次長 山田 純



「お元気ですか」、「はい、お陰様で……」。

この挨拶から始まる「お陰様」という言葉は印象的で、近所の方々との挨拶や漁協の役員の方々の会話の中でもよく耳にします。意味や由来などは特に意識せず、物心がついたころから自然と慣れ親しんできた「お陰様」という言葉について、ふと気になったので調べてみました。

お陰様とは、他人から受ける利益や恩恵を意味する「お陰（おかげ）」に、「様（さま）」をつけて丁寧にした言葉だそうです。そして、古くから「陰」は神仏などの偉大なものの陰で、その庇護（ひご）を受ける意味として使われており、陰と言う文字が入っているから悪い意味の言葉では無いとのこと。また、次のような説もありました。

『昔、木の陰では旅人が暑い夏の日差しをしのいだり、雨や風、雪を防いだりしたため、その陰に「お」をつけて「お陰」、さらに「様」をつけるようになった。そこには、「お陰様」で旅を続けることができましたと感謝する気持ちが込められているとのこと。木は旅人のために枝を張り、葉を茂らせていたのではありません。木はただ精一杯、木として生きていくだけですが、「木のお陰で旅を続けることができた」と昔の人は考えたわけですね。』

私は兵庫県漁業共済組合に勤めて17年が経過しました。「光陰矢の如し」というように、振り返るとあつという間の17年であり、勤め始めた頃は右も左も判らず戸惑いを隠せなかったのを思い出します。少しずつ仕事を覚えながら、漁協に伺う機会が増え、漁業者への説明会も重ねてきましたが、今思うと決して自分の力だけでここまで来られたわけではありませんでした。

仕事を覚える「いろは」については諸先輩方に教えていただき、漁協では、仕事の不手際についてのお叱りや、数々の助言、ご指導をいただき、漁業者からは漁業情勢の生の声や、漁法や魚について教えていただきました。今の自分があるのは、漁業者や漁協をはじめとする水産業界に携わる皆様のお陰であると思っております。

今、「漁業があり、漁業者がいるお陰で漁業共済という仕事がある」ということを実感しています。

漁業者から「漁業共済に加入していたお陰で助かった」という声を聞いた時には、この仕事をしていて本当に良かったと思えます。

ご縁があった皆さんの皆様と出会い、「お陰様」で成長させて頂いたことに感謝してこれからも奮励して行きたいと思えます。

CONTENTS

No.701 March. 2015

- 2 ようそろ
- 3 イカナゴ漁 解禁
室津漁業協同組合かき養殖同業会
農林水産大臣賞を受賞
- 4 JF兵庫漁連 ブラジルで兵庫のりのPR、
市場調査実施
- 5 淡路地区漁業士による座談会を開催
「阪神・淡路大震災から20年 これからの
協同組合の役割」シンポジウム開催
- 6 瀬戸内海環境保全協会 賛助会員研修会
- 7 淡路漁青連の料理教室
映画「種まく旅人 くにうみの郷」
- 8 2月の“命を守る運動”海上安全講習会
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「イカナゴ漁解禁」(明石海峡)

(写真提供：兵庫県内海漁船保険組合 井田 覚氏)

平成27年のイカナゴ漁は小雨が降るなかの解禁となりました。

写真は、撮影者の井田さんが糸谷 安一組合長(JF兵庫)の漁船に乗せてもらい、明石海峡付近で朝日とともに網を入れて一斉に網を曳き始めたところを収めたもので、レンズには雨、波しぶきが付いています。

小雨・風・ウネリという条件のなか朝日に向かって進むこの光景は、待ちわびた解禁にかける漁業者の想いが漁船の後ろ姿をとおして伝わってくる一枚となりました。今漁期の豊漁と安全操業を祈念いたします。

この漁が始まると本格的な春の訪れはすぐそこです。

瀬戸内海に春を告げる イカナゴ漁 解禁



(写真提供：JF兵庫漁連 津田 英幸氏)



明石浦漁港の水揚げの様子(写真提供：JF兵庫漁連 津田 英幸氏)

今漁期のイカナゴ漁は2月26日(木)に解禁しました。
兵庫県立水産技術センターでは、今年のイカナゴ漁獲量を「産卵量が少なく過去最低レベル」と予測するなかでの解禁となりました。県内の水揚げ状況は、天候・潮が悪く、やや少なめか平年並みであった一方、サイズは35ミリ前後と生育状況は良く、消費者がくぎ煮を炊くのにも適当な大きさまで成長してました。明石市の魚の棚商店街では、早速イカナゴを買い求める消費者の姿が見られるなど、漁業者も消費者も待ちわびた解禁となりました。



魚の棚商店街はイカナゴを買い求める客で賑わった

とともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させて水産業・漁村の活性化を目的とし、毎年開催されています。
本県からは、室津漁業協同組合かき養殖同業会磯部公一氏が、多面的機能・環境保全部門において「効率的で漁場環境に配慮した力キ養殖を指して、落ちがきキャッチャーで力キをキャッチ」と題した発表を行いました。これは垂下養殖中、波浪などの影響で力キが筏から脱落し海底で死滅すると底質の悪化に繋がる可能性があることから、海底に落ちないよう「落ちがきキャッチャー」と名付けた円形の網を釣り下げ漁場環境



平成27年2月26日(木)の2日間、東京・千代田区においてJF全漁連(岸宏会長)主催の「第20回国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。この大会は、全国青年・女性漁業者が、日頃の研究成果を発表する

第20回国青年・女性漁業者交流大会 室津漁業協同組合かき養殖同業会が農林水産大臣賞を受賞

姫路農林水産振興事務所

の悪化を防止することと併せて、脱落する力キを受け止め商品にしようというものです。
生産量の2〜3割に達する落ちがきを回収することで、生産性向上だけでなく環境保全や海底清掃作業の軽減につながるという内容が高く評価され、27日の結果発表では同部門で見事に農林水産大臣賞を受賞されました。



農林水産大臣賞賞状を手にする磯部氏

兵庫のりをブラジルに届けたい！
～JF兵庫漁連が現地でPR・市場調査～

JF兵庫漁連

南米最大の国、ブラジル連邦共和国（以下ブラジル）は日系人が多く、味噌・醤油などの日本食材が普及しているほか、日本料理レストランや手巻き寿司のファストフードチェーン店も数多くあり、ブラジル国内で消費される海苔（全形）は推計1億5,000万枚とされています。また、同国パラナ州は兵庫県と姉妹提携を結んでおり、県民交流団の派遣など人的交流が盛んなところと見られます。



現地商社は強い関心を示しています



レストランでの商談風景

JF兵庫漁連（山田 隆義会長）は、平成21年度に農林水産省「農林水産物等輸出ステップアップ推進事業」として、兵庫のりをブラジルに輸出するプロジェクトを開始しましたが、ブラジル市場の大半を占める中国産海苔との価格差が5倍以上の開きがあることから、中国産の価格が上昇していることから、昨年には（一財）日伯協会の協力を得て調査を再開し、今年度は「平成



パラナ州庁との打合せ

26年度農山漁村6次産業化対策事業」を用いて2月1日（日）から約2週間に亘り、ブラジルにおいて海苔の販路拡大に向けた市場開拓とPRなどを行いました。

今回の行程は、同漁連 突々 淳参事と、のり海藻事業本部 藤澤 憲二次長ならびに日伯協会 多田 義治副理事長がサンパウロ市をはじめとする各市の輸入販売業者へのPRと営業活動、またレストランではPR・市場調査を行ったほか、ご飯と具を乗せた海苔を折りたたむだけの「おにぎらず」の調理実演も行い、昨年以上の好感度を得ることが出来ました。このように焼き海苔の輸出の可能性を見出す一方、現地で焼き海苔加工場に投資してくれる実業家を探すための説明会をパラナ州

クリチバとパラナグアで開催しました。原料の乾しノリを輸出し、JF兵庫漁連が加工技術面で協力する現地工場で焼きたての製品に仕上げることで、ブラジルでの小売価格を抑え、他国の海苔に対する競争力をつけることもに焼きたての美味しさをアピールするのが狙いです。

このたびの調査では、同国での日本食ブームがさらに拡大し、ブラジル国内では予想の2倍にあたる約3億枚（推定）の海苔が消費されていることも判り、今後への期待が膨らんでいます。

◀パラナグア市での説明会の様子



淡路地区漁業士による座談会を開催 ～6次産業化について学ぶ～

洲本農林水産振興事務所

2月10日(火)、洲本市で「平成26年度淡路地区漁業士による座談会」が開催され、淡路島内の漁業士や、淡路地区漁協青壮年部連合会の役員、行政担当者らあわせて20名が参加しました。兵庫県漁業士会 魚住 幸市会長(JF育波浦)は挨拶で「今年で県漁業士会の活動は休止するが、会員の大半を占める淡路地区だけで行政の支援も得て活動を継続することになった。現在、淡路は県漁青連・女性連の会長を輩出して



吉岡氏の講演の様子

いる地区であり、この淡路から兵庫の海を支えるため、今後淡路地区で活動を継続していきたい」と述べられました。続いて、一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 吉岡 靖二氏から「6次産業化への取組について」と題した講演があり、全国で実施されている6次産業化の取組み事例やグリーンツーリズム(農山漁村に滞在し、地域の自然・文化・人との触れ合いを楽しむ余暇活動)についての説明がありました。吉岡講師から「6次産業といえば加工品を作るというイメージがあるが、地元の景色を見せたり作業体験、宿泊などもそれに含まれる。地元の人が美味しいと言っているもの、楽しいと思っていることに観光客は関心を持っている」など貴重なアドバイスをいただきました。

「阪神・淡路大震災から20年これからの 協同組合の役割」シンポジウム開催

(一財)兵庫県水産振興基金

賀川記念館、コア1000賀川(※)、近畿労働金庫は、賀川豊彦献身100年記念事業としてシンポジウム「阪神・淡路大震災から20年 これからの協同組合の役割」を2月21日(土)、神戸市にある賀川記念館で開催し、大勢の協同組合関係者らが集まりました。

基調講演を行った神戸商科大学 小森 星児名誉教授は、震災後に神戸復興塾長として取り組んだ経験や、地域コミュニティの在り方について海外事例を交えて紹介され、「地域コミュニティに新しい提案が求められるなか、協同組合が今後どう連携し活動するかが重要」と締めくくられました。パネルディスカッションには4名の方が登壇され、各パネラーは震災時の対応やその後の取組みなどを振り返りつつ、「協同組合間の連携の大切さ」、「教育の重要性」、「人と人との繋がり重視」といった意見を述べられ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



小森名誉教授の基調講演

※コア1000賀川とは

賀川記念館の行う事業を支援する関係団体から集まった人々で構成する実行委員会です。

瀬戸内海環境保全協会 賛助会員研修会

～瀬戸内海における今後の環境保全と創造の方向性について～

(一財)兵庫県水産振興基金



講演を行う藤原教授

昭和48年に制定された瀬戸内海環境保全臨時措置法（昭和53年特別措置法に改正）や昭和54年から導入された水質汚濁防止法の総量削減規制により、瀬戸内海の海域環境は大幅に改善されてきました。が、貧栄養化や生物多様性の低下、水産資源の減少等の課題が発生しています。

このような現状の中で、（公社）瀬戸内海環境保全協会（会長：井

戸敏三兵庫県知事）の主催で「瀬戸内海における今後の環境保全と創造の方向性について」をテーマに研修会が2月10日（火）、神戸市内で開催されました。

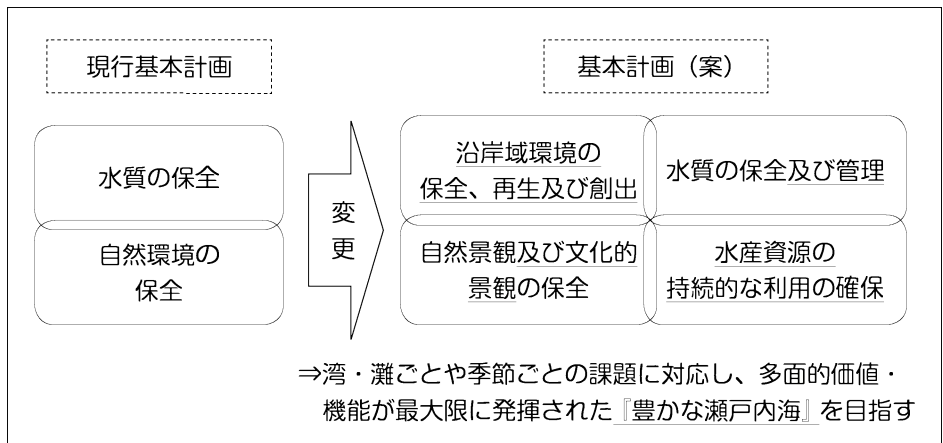
当日のプログラムは、行政報告2件と研究報告1件でした。最初に、環境省閉鎖性海域対策室 石川 拓哉室長補佐から法の理念を実現するための具体的方針である瀬戸内海環境保全基本計画の改定状況

が報告されました。その骨子は別掲のとおりです。次期基本計画はこれから関係省庁との協議を経て、政府方針として閣議決定されます。（このあと2月27日閣議決定されました）瀬戸内海環境保全特別措置法の改正予定内容を踏まえ、新たに「水産資源の持続的な利用の確保」と「沿岸域の環

境の保全、再生及び創出」を目標に加えており、私たちの悲願である「瀬戸内海の豊かな海への再生」実現に向けて極めて大きな前進になります。

続いて、兵庫県 春名 克彦 水大気課長から豊かで美しい海の実現をめざした兵庫県の取り組み状況として、「キレイな海に戻すために工場排水規制や下水道整備を進めてきた結果、窒素・リンは大阪湾・播磨灘ともに1類型下の環境基準値になっている。これからは豊かな海実現のために、栄養塩管理と干潟・浅場の再生を図ることが重要であり、既に下水浄化センターでの栄養塩管理運転や河川工事で発生した土砂による覆砂などを実施している。」ことが報告されました。

この後、京都大学 藤原 建紀名誉教授から、豊かさを実現できる海についての講演がありました。藤原氏は「瀬戸内海の漁獲量は昭和62年から20年以上継続して減少し、現在は1/2以下になっている。瀬戸内海の生物を豊かにする方策は、生物が育つ場を整備すること、生物に適切なレベルの栄養が届くことの2つに集約される。」とした上で、漁



獲量の減少原因が明確な魚（イカナゴ）と貝（ウチムラサキ）について、海砂採取などによって生物の育つ場所が減っていること、状況を説明するとともに、無酸素水塊の解消など生き物の育つ場所作りのために行うべきことを紹介されました。

「淡路の魚をもっと知ってほしい！」 淡路漁青連が小学校で料理教室

淡路地区漁協青壮年部連合会

『子供たちに淡路の魚の良さを知ってもらおう』と淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎大輔会長…JF淡路島岩屋）では、2月17日（火）南あわじ市立市小学校の5年生児童ら33名を対象に料理教室を開催しました。

同漁青連 渡邊 直部員（JF由良町）が講師を務め、まず、サヨリの捌き方を鮮やかに実演しました。その後、各テーブルに分かれた児童の実習が始まりました。普段は魚に触れる機会がない生徒が多いため、最初は戸惑っていましたが、いざ捌くととなると集中して上手に捌いていました。テーブルごとにサポートした部員や洲本農林水産振興事務所職員の確かな指導もあり、全員が無事にサヨリを三枚におろすことが出来ました。先に捌いた生徒は同じテーブルの生徒にも捌き方を教えていて、捌き方が身についたようでした。

次に、アカシタピラメのソテーを調理しました。生徒達は始めてみるアカシタピラメに「こんな魚がいるんだ。」と驚いた顔をしていましたが、上手く捌いていました。

三枚おろしのサヨリは造りになり、アカシタピラメはソテーに、他に淡



皆さん、マスクにバンダナが良く似合っています

路島産のワカメを使用した酢の物と味噌汁、ご飯と一緒に美味しく頂きました。

普段はあまり魚が好きではなかった児童もいましたが、今回の料理教室を通して魚が好きになったようで、料理教室が終わってから「今日、自分で捌いて食べた魚が美味しかった。」と皆、興奮していました。

料理教室を通して、淡路の魚の美味しさは勿論のこと魚体の様子や食べ方など、いろいろなことを知ってもらおう良い機会になったと思います。

映画「種まく旅人 くにうみの郷」

淡路島を舞台にした映画「種まく旅人 くにうみの郷」では、漁業者と農業者が共同しておこなう「かいぼり」やノリ養殖が紹介され、島内漁業者も撮影に参加しました。

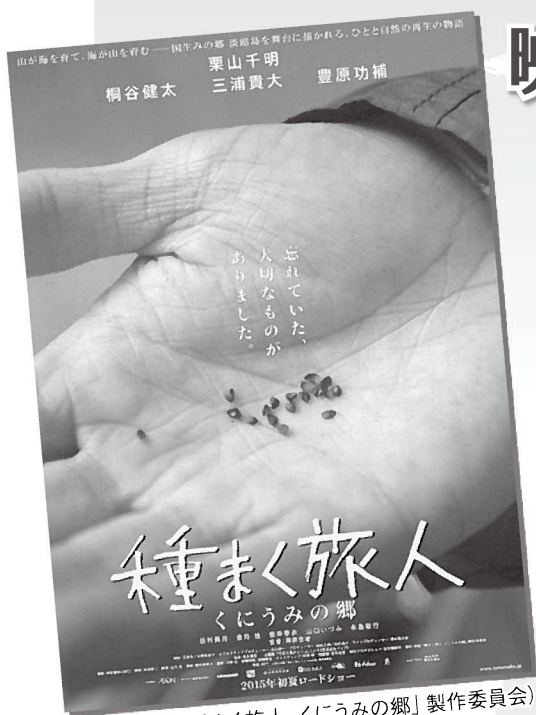
なお、4月24日（金）神戸市の兵庫県民会館「けんみんホール」にて、県下JFなどを対象とした特別試写会が行われます。

配給：松竹株式会社 宣伝：松竹株式会社メディア事業部

www.tanemaku.jp

2015年5月30日より

全国ロードショー



©2015「種まく旅人 くにうみの郷」製作委員会

2月の“命を守る運動” 海上安全講習会

～組合員のライフジャケット 100%着用を目指して～

JF・系統団体が各地で開催している“命を守る運動”海上安全講習会が2箇所で開催されました。その内容は次のとおりです。

【2月3日(火)：高砂市漁業組合連合会(松本 力会長：JF高砂)】

高砂市漁業組合連合会は、毎年この時期に安全講習会を開催しています。当地区のライフジャケット着用率は非常に高く、組合員の安全意識の高さがうかがえます。

さて、今年の講習会では、まず「船舶交通の安全について」と題して加古川海上保安署 小原 雅之専門官から講演がありました。近隣海域で発生した海難事故について説明があったほか、津波に対する備えについても話題が及びました。次に「海難事故並びに訴訟実例について」と題して兵庫県内海漁船保険組合 沢辺 義典専務理事より講演がありました。両講演とも身近なテーマであり、参加者は真剣に耳を傾けていました。



小原専門官による講演



沢辺専務は訴訟事例について紹介

【2月16日(月)：育波浦漁業協同組合(小溝 政二組合長)】



「皆が着用する雰囲気づくり」の大切さを説く筒井調整官

「命^く邪魔^くさい着けない理由はこれだ！」と題し、ライフジャケット着用の重要性に関する講演のほか、講師が得意とする心理学からのアプローチによる着用推進がありました。

今後、当地区で「組合員のライフジャケット100%着用」を目指すことに賛同が得られ、講習会を終了しました。



様々なライフジャケットを紹介

「組合員のライフジャケット100%着用宣言」で海難事故ゼロを目指します！

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを 着用しよう！

着用時の生存率は約85%です。

是非、着用して下さい！
なお、着用の際は体にあったサイズを選ぶか、金具等を調整して使用しましょう。



メンテナンスフリーの
固型式ライフジャケット
モデル：関西学院大学
文学部
田和 正孝教授

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



よく浮きますよ!!

モデル：JF兵庫信漁連本店 米重 美香さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

ジャガイモ植え付け体験 ～インフォマーシャル撮影も～

JA兵庫南農産物直売所ふぁ～みんSHOPかんき運営協議会は2月15日（日）、加古川市西神吉町の圃場でオーナーによるジャガイモの植え付け体験を行い、家族連れなど約150人が参加しました。このイベントは、植え付けから収穫までの体験を通じ、食の大切さを感じてもらおうと、一口10株1,000円でジャガイモオーナーを募集しています。同町の西脇営農組合と同JAかんき支店、ふぁ～みんSHOPかんきが協賛し、ボランティアとして神戸学院大学の学生も参加しました。

参加者は種芋を切って植え付けを行い、終了後は地元の野菜を使った豚汁が振舞われました。

同運営協議会の長谷川博信会長は「スーパーマーケットでは味わえない野菜の本当の味を知ってもらい家庭に届けたいです。若い人たちにも関心を持ってもらい、輪を広めていくことが目標です」と話しました。

また、この様子はJA全中が作成するインフォマーシャル（情報発信に重点を置いた広報）として食農教育をテーマに撮影が行われました。インフォマーシャルは3月中旬の「アグリンの家」CM枠で放送される予定で、その他にもJAグループのイメージアップに活用される予定です。



植え付けに気合いを入れる参加者

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

消費者市民社会の実現へ ～新春トップセミナー・ 賀詞交換会を開催～

兵庫県生協連では、1月10日（土）、兵庫県民会館にて「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催。兵庫県をはじめ会員生協・団体から44人が参加。新年の決意を新たにす機会となりました。

セミナーは、（公財）消費者教育支援センターの総括主任研究員・柿野成美氏に、「『消費者市民社会』の実現に向けて～生活協同組合への期待について」と題して講演いただきました。発展途上国で作られた作物や製品を買い支えていくことで、生産者の持続的な生活向上を支えるしくみの「フェアトレード」。大学生や若い世代が企業などに呼び掛け、その認知度を高める活動がすすめられています。「消費者の行動が社会を変える」「消費生活に関する知識だけではなく、行動に移せる実践的能力を身につけることが大切です」と結ばれ、会場では熱心に聴き入る参加者の姿が見られました。

また、トップセミナーに引き続き、金澤和夫副知事のあいさつと乾杯で賀詞交換会がスタート。会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて交流を深めました。



◀挨拶される
金澤和夫
兵庫県副知事



消費者としてのあり方についてご講演いただきました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

2月発行の拓水第700号 5頁の「第39回淡路のり品評会 開催」において、下記の表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

第39回淡路のり品評会審査結果表の右側（兵庫県漁業共済組合長賞の漁協名）

① 豊津浦 → ② 室津浦



旬に想う

写真と文
遊方子

董・蒲公英・蓮華草

◆春、花開く身近な野草として、スミレ・タンポポ・レンゲソウが知られる。道端や空き地に咲くスミレの濃い紫色は印象に残る。花びらは5枚、上2枚とその横下2枚、一番下に唇形の1枚があり、大工の使う墨壺に似た所から墨入れの意でスミレの名が生まれたというのが定説だが、疑問視する声もある。菜園にも多く自生してヒヨウモンチョウが盛んに産卵に来る。初夏を過ぎて出来た蕾は殆ど開かず、蕾の内部で自家授粉しタネを作る。様々な遺伝子を持つ子孫は作れないが、虫任せとせず確実に子孫を残す「閉鎖花」なのである。

◆タンポポは野面を黄に染めて目立つ。知らぬ人は無い花で、春が来たという感じがする。在来種と西洋種のある事も、かなり知られている。一九〇四年、札幌でセイヨウタンポポを見つけたと牧野富太郎博士が雑誌に紹介し、この種は日本中に広がるだろうと予言された。今その通り、在来種が西洋種に駆逐されつつある。その凄惨い所は、在来種のように群れる必要がない、いわば一人旅でドンドン拡がり増えられる。セイヨウタンポポ一個の花に約二百のタネがつくから、一株5個咲くとして千個のタネが出来る。在来種は秋まで発芽しないが、これは地に落ちて直ぐに発芽し、3ヶ月で花が咲く。繁殖は実に夥しい。

◆菜園の片隅でセイヨウタンポポに肥料を与えたら、葉がドンドン大きく育って長さ50センチ・幅10センチを超え、全体が1メートルほどの円状になった。野菜としては少し苦みがあるが、茹でて晒せば和え物になる。本来、薬用植物として肝病や貧血症・胃病に効能があり、根は漢方薬として解熱・滋養強壮に使われる。タンポポの黄が目立つのに比べ、赤い絨毯のようなレンゲ畑姿を消した。レンゲ(正式にはゲンゲ)は、自然には生えないため、秋に田圃へタネを蒔いて緑肥として使ったが、近年は化学肥料に押し付けられ少くない。田圃の機械化で時期が早まり、レンゲの生育サイクルと合わないのが、レンゲ畑減少の理由である。

◆レンゲの根には窒素肥料を蓄える根粒菌があり、田に働き込めば有機肥料になり、肥料代の節約が出来るが殆んど利用していない。紅い色の田圃が珍しく「レンゲ祭」と称し、町興しや人集めに使う。昔、養蜂家はレンゲ畑の開花を追い、蜂を引き連れ日本列島を北上したが、今はどうか。神戸町西条の養蜂園では農家に頼み、レンゲを蒔いて貰って採蜜している。蜜源「レンゲ」と記す美味い蜜は採蜜期が極めて短い。レンゲに変わりへアリーベツチという植物が登場、加古川や稲美で実践されている。花は藤色で美しいが蜜はどんな味か。

ホウズキの朱



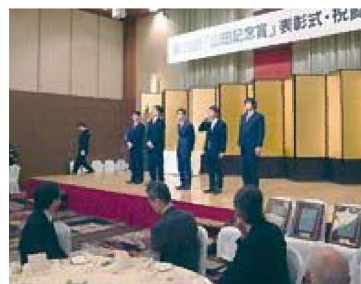
大輪田塾だより

大阪湾海上交通センターについて

2月17日(火)、大輪田塾は現地研修として、淡路市にある第五管区海上保安本部 大阪湾海上交通センターで開講しました。

同センターでは、明石海峡における船舶交通の安全性や運航効率性の向上に係る取組みについて話を聞いた後、実際の運用管制や情報提供の現場を見学することが出来ました。塾生は、普段は見ることが出来ないレーダーやAIS搭載船の動きを示す画面などを見たり、ラジオやインターネットを使って情報提供を行っている光景を見るなどして理解を深めました。

他に5日開催の第18回山田記念賞で10期生5名が紹介を受けて会場の皆さんに抱負を述べたり、「平成26年度瀬戸内海環境保全協会賛助会員研修会」・「平成26年度淡路地区漁業士による座談会」が認証講座として開講されたりと学ぶ機会に恵まれたりとした。



山田記念賞で抱負を述べる10期生の皆さん



レーダーの画像について説明を受ける

大輪田塾の予定

- 3月講座：3月24日(火) 水産会館にて「漁業共済について」
- 「水産物の消費と流通」
- 4月講座：4月28日(火) 水産会館にて「漁船法概要」
- 「漁業と栄養塩に関する講座」